

第6学年 道徳科学習指導案

平成29年6月15日（木）第5校時

1 主題名 たゆまぬ努力と夢の実現 内容項目 [A 努力と強い意志]

2 ねらい 努力する中にはうまくいかないこともあることを理解し、困難があってもくじけずに努力しようとする心情を育てる。

教材名「世界に羽ばたく『航平ノート』」（出典：学研「みんなのどうとく」埼玉県版）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本主題は、小学校第5学年及び第6学年内容項目 [希望と勇気・努力と強い意志]「より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやりぬくこと。」を深めることを意図したものである。これは、低学年の内容項目 [希望と勇気・努力と強い意志]「自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。」、中学年の内容項目 [希望と勇気・努力と強い意志]「自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。」で育まれている。また、中学校の [希望と勇気、克己と強い意志]「より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を越えて着実にやり遂げること。」につながっていく。

児童が一人の人間として自立しよりよく生きていくためには、常に自分自身を高めていこうとする意欲をもつことが大切である。この時期の児童は、先人や著名人の生き方に触れる機会が多くなり、その生き方に憧れたり、自分の夢や希望を膨らませたりする。しかし、自信が持てなかったり、成果が出なかったりして、夢と現実との違いを意識する。ゆえに、様々な生き方への関心を高め、自己の向上のために目標を設定し、その達成を目指して希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力しようとする強い意志を育てたい。

指導に当たっては、苦しくてもくじけずに努力し、失敗を重ねながら夢を実現した人に触れ、壁に当たっても希望をもって粘り強く取り組む強い意志を養うことを大切にしたい。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、自分たちの中で「こうなりたい」と目標を決め、コツコツ努力をする児童が多い。4月に進級してすぐに行った学級会では、最高学年としてどんな風になりたいか、そうなるために自分たちに必要な力は何なのかを考えた。自分たちが決めた目標とする姿に近づけるように大きな声で挨拶や返事が言えたり、響くように歌えたりしたいと考えた。本校では、毎月あいさつ運動週間がある。あいさつ運動中は、6年生の児童が当番で校門前に立ち、登校してくる下級生に挨拶をする。あいさつ運動の時に下級生の目を見て挨拶をすることを意識したり、歌う時に口を大きく開けて歌うことに気をつけたりする姿が見られたら、称賛するようにした。また、4、5月は、1年生の給食や掃除のお手伝いをしながら、最高学年としての自覚が少しずつ芽生えてきた。道徳の学習では、「市民に愛される動物園をめざして」で、目標を達成するために、様々な困難にもめげず、自分の考えに自信と希望をもって粘り強く努力する大切さを学んできている。しかし、5月に行われた新体力テストのシャトルランでは、自分の目標をもってのぞんだが、疲れてしまい、諦めてしまう児童がいたり、陸上記録会の練習では努力することを諦めてしまう児童がいたり、本当の困難や苦しさ立ち向かう力に欠ける場面も見られた。そこで、自分の目標のために困難があってもくじけずに努力する大切さについて考えを深めさせたいと考えた。そして、自分の目標の実現のために、必要な心や考え方について具体的にとらえられるようにしたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、ロンドンオリンピック金メダリストである内村航平選手が、いくつもの壁を乗り越え、理想とする演技獲得のために、根気よく努力を続ける姿を中心に描かれている。小学校高学年の時に自らイメージした技を「じゅうちょう」にかき溜め、困難な状況下でも諦めない精神をもち、現状で満足せずにより高い技に向けて、トランポリンを使い練習する内村選手の小学校時代の話であるが、児童はなかなか内村選手のようにはなれない。そこで、困難にぶつかったときに、自分が内村選手だったらどうするかを主発問とし、自分のこととして考えることを通して、児童に、困難があってもくじけずに努力し、目標に向かってやりぬく大切さに気付かせたい。

そのために、内村選手の姿を通して、以下の視点について話し合うことにする。

①トランポリンを使っても技の感覚をつかむことができない場面

ここでは、航平にも上手いかわりに悩んだ時期があることに気付かせ、トランポリンなら自分の目標としている技が出来ると思って挑戦し続けたが、なかなか出来ずに苦しんでいた航平の気持ちを考えさせ、困難にぶつかりながらも乗り越えてきたことをおさえる。

②航平が諦めなかった理由

ここでは、自分の目標に向かって強い意志をもって困難を乗り越え、壁に当たっても希望をもって粘り強く取り組む大切さについて考えさせる。

以上の理由から、本主題を設定した。

4 研究主題との関わりと他の教育活動等との関連

心豊かにかかわり、自他共によりよく生きようとする児童の育成
—「考え、議論する」道徳の時間の充実を図り、自己の生き方についての考えを深める—
＝道徳科への移行をふまえて＝

(1) 研究主題とのかかわり

本主題では、努力と強い意志について学んでいく。自分の力を信じ、困難を乗り越えながら希望をもって努力を続け、壁に当たっても希望をもって粘り強く取り組むことで自己実現できる素晴らしさを感じ取らせ、自己の生き方についての考え方を深めさせたい。

(2) 指導の工夫

①子どもの主体的な参加を促す工夫

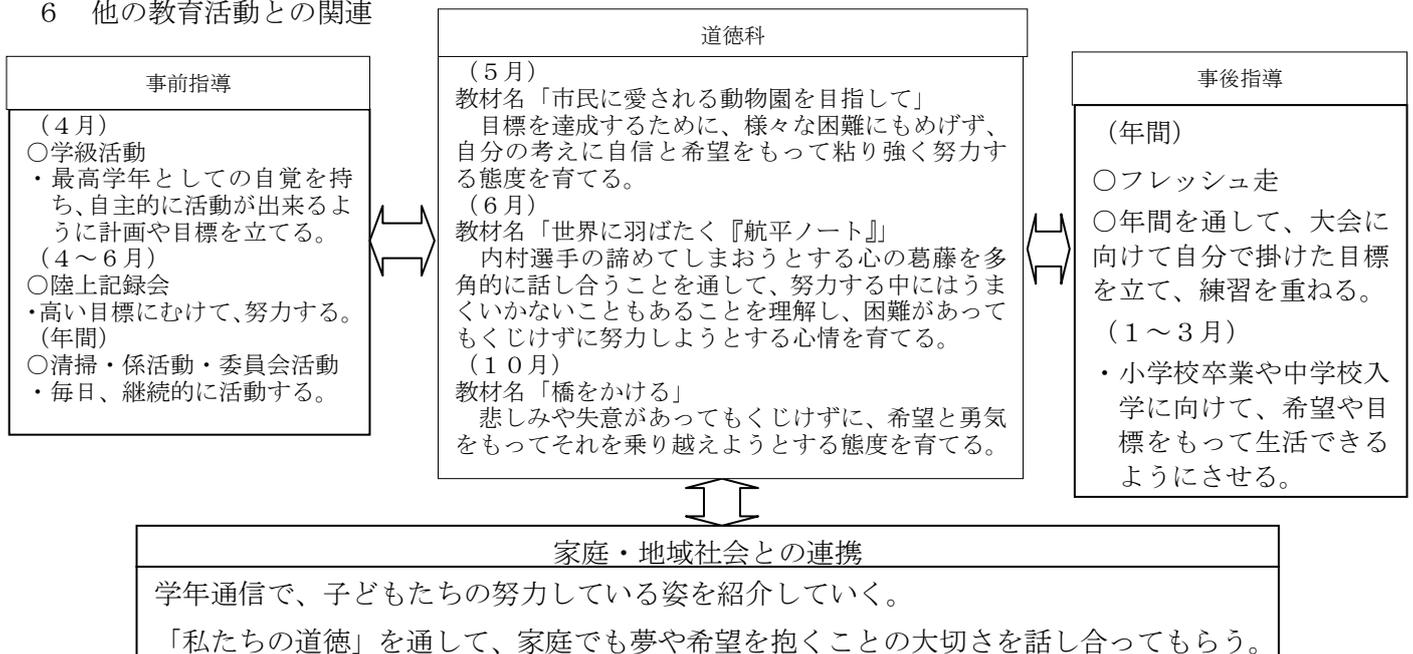
- ・導入で内村選手のVTRを使うことによって、児童を教材の世界に誘う。

②考え、議論するための指導方法の工夫

- ・葛藤場面で、心の円グラフを取り入れることで、諦めそうな心と諦めない心の葛藤を考えさせる。そのことにより、自分におきかえて努力について考えを深めさせたい。

		や ・もう、疲れた ・もうやめようかな ・難しい技は、出来るようにならないのかもしれない ・練習をし続け、難しい技ができるようになりたいという思いがあったから ・今は出来なくても、絶対になれるようになりたいという気持ちがあったから 内村選手はなぜ諦めなかったのだろう	意図：航平にもなかなか上手にいかずに悩んだ時期があったことに気付かせ、乗り越えてきたことに共感させる。 ○諦めずに努力し続けたことで、成功していく姿をとらえさせる。 意図：努力中にはうまくいかないこともあることを理解し、困難があってもくじけずに努力しようとする大切さに気付かせる。 ☆航平の努力し続けることの強い意志や、挑戦し続ける気持ちに気付けたか。(発言)	5
	5 今日の学習で感じたことを書く。	・大きな舞台で活躍したいという強い思いがあったから ・くじけずに努力する気持ちがあったから ・自分なら出来るという気持ちがあったから ・目標を達成できなくても、諦めずに最後までやり抜くことが大切。 ・目標に向かって努力する。	○内村選手の行動から、今後の自分について考えさせる。 ☆これからの生活で、どんなことを心がけていきたいかを考えることができたか。(道徳ノートの記入)	5
終末	6 教師の説話を聞く。		○価値に関する印象を深め、道徳的実践力への意欲づけを図る。	3

6 他の教育活動との関連



7 評価の観点

〈児童の学習状況の評価〉

- ・航平の努力し続けることの意志や、挑戦し続ける気持ちに気付けたか。

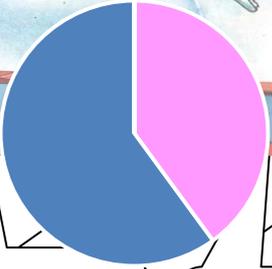
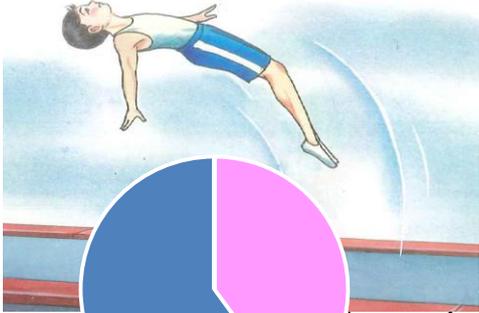
〈児童の道徳性に係る成長の様子の評価〉

- ・目標の実現に向けて、努力しようとする意欲が高まったか。

8 板書計画

世界に羽ばたく「航平ノート」
内村航平選手
ロンドンオリンピック 金メダル
内村選手の諦めない理由

内村選手はなぜあきらめなかったのだろう



トランポリンを使っても、感覚がつかめない

- ・難しい技ができるようになりたいという思いがあった
- ・絶対にできるようになるという思いがあった
- ・くじけずに努力する気持ちがあった

- ・できるようになりたい
- ・あと少しやれば、出来るかもしれない
- ・もっと練習しなければ

- ・どうせ出来るようにならない
- ・十分やったから、もういい
- ・疲れた
- ・もうやめようかな

・高学年になり、たくさん練習するが、自分のイメージした技がなかなかできず、苦しい

・小学一年生で初めて出場した大会は、最下位

・幼いころから体操を学ぶ